

# 抗日舞踊における呉曉邦

—ドイツ表現舞踊の受容を中心に—

星野幸代 HOSHINO Yukiyo  
(名古屋大学)

## 着想の経緯

中国近現代文学(1920年代)  
→台湾文学

- 台湾のコンテンツポラリー・ダンス・カンパニー「雲門」:  
歴史を踊る  
→解釈  
→中国における西洋舞踊受容の歴史  
→?

\*民族舞踊と一緒に辞典、舞踊史は多数

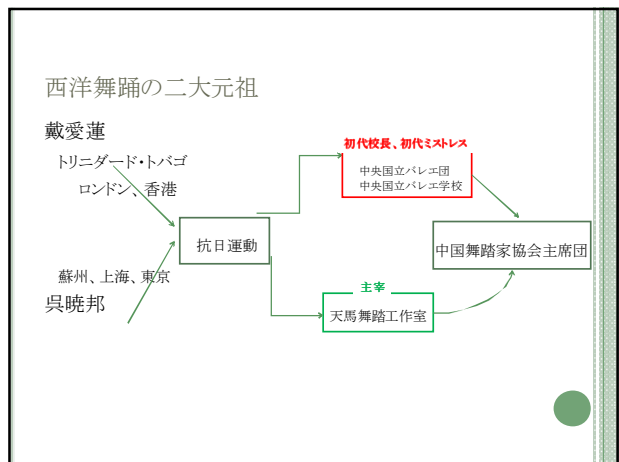
○抗日舞踊は、話劇、映画、音楽、漫画(など)と連動し、移動しながら行われた⇒科研の共同研究

## 西洋舞踊受容の重要人物

**戴愛蓮 (1914-2006)**  
華僑。ロンドンで正式なクラシックバレエ、モダンバレエを習得。

**呉曉邦 (1906-1995)**  
日本でモダンダンスを学ぶ。



本発表の目的: 呉曉邦の舞踊修行～抗日運動までを追い、ドイツ表現舞踊の受容を探る

○ **戴愛蓮**  
拙稿  
「抗日運動における舞踊家・戴愛蓮——陳友仁、宋慶齡との関わりを中心に」  
(東方学会『東方学』2012年7月号)  
をご覧ください。

○ **呉曉邦**  
「日本で舞踊を専攻した...」  
「早稲田に留学した...」  
「日本で高田雅夫、江口・宮にドイツ現代舞踊を学んだ...」  
?

## 留学までの呉曉邦(シヨパンに因んだ通称)

1906年 江蘇省太倉県の貧農に生まれ、生後十か月で富裕な呉家の二房の養子に。  
1914年 呉家の二房の遺産を継ぐため、養母とともに蘇州の近くに引っ越し。  
東呉大学付属中学で学ぶ。「アメリカ人が設立した、中国の資産階級の子弟を育てる学校だった。」  
1921年 養母が江蘇省典業銀行に投資、呉は見習社員。  
外国人の主催する夜間補習学校で、英語、代数幾何、銀行会計を学ぶ。  
1924年 上海へ引っ越す。滬江大学付属高校編入。  
1926年 持志大学に編入。中国共産主義青年団に入団。 \*このころには最初の結婚をしていた。  
武漢中央軍事政治学校に入学。  
1927年5月 国共対立により、武漢中央軍事政治学校が機能せず、上海へ戻る。仕事を探して、香港へ(広州には親戚がいた)  
1928年2月 上海で中学の歴史教員になるが、授業中に革命思想を教えたために首になる。  
祖母に1500元もらい、日本へ留学。

## 1929年までの日本: 西洋舞踊受容状況

### 大正デモクラシー

Giovanni Vittorio Rosi (1895-1929伊) 指導のオペラ  
= 正統派。時期尚早で流行らず。

門下生: 高田雅夫、石井獺など

浅草オペラ→大衆受け

演技者たちの疑問: 芸術性の低下、行き詰まり

⇒ 興行主後援等により、舞踊家の外遊相次ぐ

高田雅夫&せい子→アメリカ、ドイツ、イギリス

石井獺&小浪→ドイツ、イギリス

江口隆哉&宮操子→ドイツ

関東大震災: 浅草界隈焼失 = 浅草オペラ時代の終焉  
芸術としての舞踊の時代へ〜高田・石井時代〜

## 日本に留学: 第一期

1929 (昭和4) 春 東京の日本語補習学校へ。\*新宿区若松町と考えられる。

「若松町は早稲田大学から遠くなく、早稲田大学の正門の一本道に面していて...」

・バイオリンを個人レッスンで習う。

・大隈講堂で、毎週(土)公演を観る。

「梅娘」「ファウスト」「蝶々夫人」「カルメン」、話劇や舞劇

早稲田大学生の創作舞劇「群鬼(幽霊たち)」を観る。

・日比谷講堂で: 石井獺、崔承喜を観る。

5月29日高田雅夫没(1895-1929)。

6月23日早稲田の大隈講堂で「高田雅夫を偲ぶ舞踊と映画の夕」が開かれる。

8月31日「故高田雅夫追悼舞踊会」日比谷野外新音楽堂で。石井獺、エリナ・パプロバなど。

冬 高田雅夫舞踊研究所の門下生募集の広告を新聞で見で、応募。

\*試験の詳細は定かでない。

1930年春、勉強に便利のように、東中野付近に越す。

月謝10元、毎週3回のグループレッスン。

## 高田派のスタイル

アメリカのthe Denishawn School  
of Dancing and Related Artに  
一年学ぶ

雅夫: 機敏でスマート  
せい子: 流れるような優美さ



## 九・一八事変が起きたため、蘇州に帰る

- 1932年 上海、北四川路に住み始める。
- 上海四川北路 吳曉邦舞踏学校、設立。
- 映画俳優舒繡文が二か月学ぶ。

\* 当時、日本への留学生は増加

(「一・二八」後劉日学生的「返日潮」『中国人留学日本百年史』上冊)

→ 日本に勝つため日本を知る

吳、再び日本へ。

## 日本留学: 第二期

- 1932 (昭和7) 年 再び東京へ行き、高田雅夫舞踊研究所で学ぶ。

- 1933年「傀儡」を振付け、高田せい子に褒められ、学生創作発表会に出してもらう。

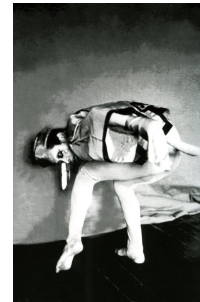
\* 右の写真ではありません \*



## 創作舞踊「傀儡」

溥儀に取材。

- ・ ソロ
- ・ 衣装は犬をまねる。
- ・ 動作は操り人形をまねる。
- ・ 最後には操っていた「糸」が切れ、傀儡は地に倒れる。



## 高田せい子の指導

- バレエを教えたが、バーを使うことを主張せず。
- 「これは彼女がパリで受けたダンカン現代舞踊の影響だろう」
- 「だから、彼女が教えていたのはモダンダンスではなかったが、同様に無理なポーズを強いることに反対であった。高田先生はロマン主義の舞踏家だった。彼女は自分の門下生たちが好きで、生徒たちの身体に新しい創造を見出すことを求めた。」

## 1934年冬 母の死により帰国。

上海に「**曉邦舞踏研究所**」を開く。

このころ葉浅茅・梁白波・陳歌辛らと知り合う。

歐陽予倩は隣人。彼の娘たちに舞踊を教える。

「研究所に来る人は、そのほかに映画俳優と歌舞団のメンバーがいた。しかし

私がみなにまず基礎訓練を学ぶことを求めたので、彼らは疲れると思って、

しばしば続かなくなった。」

陳大悲の主催する上海楽劇訓練所で舞踏指導に当たる。

\* 研究所の運営費は家の財産から。

1935年 第一回ソロコンサート(基本的に学生時代の習作)

ショパンの曲を用いる。「高田先生の影響」

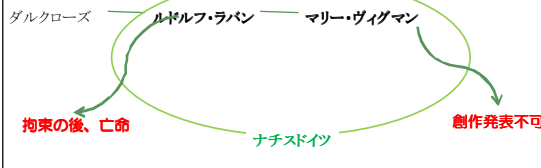
上海の観衆の反応は冷たかった。「芸術的に私はまだ幼稚な状態だった」

10月 舞踊学校をたたみ、三たび日本へ。

「今回私は**日本の舞踊界の各種の芸術流派に習熟するという目的**をもっていったのである。当時ドイツ舞踊が日本で一世を風靡しており、そのため、私もドイツ現代舞踊を理解し、研究してみたいと思った。」

モダンダンス、ノイエ・タンツ、表現舞踊などとよばれたダンスの総称。中国語では「現代舞踊」が多い。  
表現舞踊: 20世紀初め〜30年代にドイツを中心に勃興したモダンダンス

イザドラ・ダンカン ----- デニス&シオンなど



踊る身体はしばしば何らかの革命の概念と結び付けられていたのである。(山口16)

## 日本留学第三期： 江口隆哉の三週間夏期講習

### 呉の伝える江口の方法

- 打楽器での伴奏。
- 機械的な、もったいぶった動作、無理なポーズに反対する。人体の運動の科学法則は、動きの弛緩と硬直、およびその密接に関連した動きのいくつかの規律にある。
- 人体の本能的な動作
- 習慣的な動作。
- 運動における各種のエネルギー  
例えば並行した運動、波のような運動、放物線上の運動、衝撃的な運動、また主動と、行随的な運動と、ゆさぶりなど。

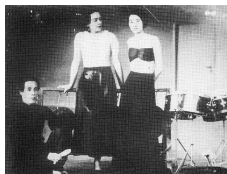
### 後年の江口の主張

- 江口: “解緊させるリラクゼーション”ということですが、私は解緊させることウィグマンに教わってそれを広めて行っています。落とすことで解緊を確認させているんですよ。落とすとはたとえば腕を横に上げていてヒジから先を下に落とすという状態ですな。それも下に落すのではなく、筋肉が緩むからその重さで落ちるんだという説明をしているわけです。私は何か落す方が一番いいんだろうと思ってやっているんですが。

## 江口隆哉&宮操子の留学

the Wiegmann School で一年間学ぶ(1933)

宮操子「タンゴ」



## ヴィグマンの踊りのヴィジョン

- 日常的な身体とは異なる舞踊の身体によって、閉塞した世界が破壊され自己解放が果たされる。(山口、175)
- 舞踊も、狭い意味での言語も、種類は違いますが比較可能な「ことば(記号)」である、という記号論的認識が成り立って初めて、「踊りによってのみ、至高の事物の比喩を語ることが出来る」(ニーチェ『ツァラストラはこう語った』)ことが可能になるのであり、このような認識が一般化したのがモデルネの時代[19世紀末から1930年代にかけてのドイツモダンダンス勃興期]なのである。(山口2-3)
- モダンダンスは、**危機に陥った現実社会の救済や、新たな秩序の創生という概念と分かちがたく結びついて**いた。(山口9)

## 呉とヴィグマン:仮面を用いた振付

呉曉邦「丑表巧」



マリー・ヴィグマン「魔の山」



## 呉の創作方法

これらの舞踏を創作する際、まずはバレエの美しい動作やポーズを使おうとは考慮したことがなく、中国人民が苦難の生活の中で闘争するイメージを、私の創作の根拠とした。私はモダンバレエを踊ろうとか、民族舞踏を踊ろうとか、あるいはバレエをなど考えたことはない。

## 1937年4月帰国～1940年まで

- 1937年4月 上海で第二回舞踊発表会（盧溝橋事件 日本軍が上海へ）
- 9月 救亡演劇隊第四隊に参加。上海→無錫→南京（空襲が激しく上演できず）→武漢
- 1937年12月 武漢で第四隊を離れる。 新四軍戦地服務団に参加。
- 1938年春 南昌 「私は上海を離れて以降このころまでに、50回以上の公演をした。私の踊るモダンダンスは当時公演した話劇と同様に群衆に歓迎された」
- 1938年12月～1939年3月 「孤島」上海へ、中法戲劇専科學校舞踏教授に。「舞踏理論」を開講。夏季講習で江口が教えたもの。生涯のパートナーとなる 盛婕に出会う。
- 1939年8月 香港の歐陽予倩に合流し、ともに桂林へ。新安旅行団（救亡工作団）で舞踏を教える。
- 1940年10月 長沙抗敵劇団の招へいで教え、公演。
  - 広東省曲江へ、戦時芸術館の短期舞踏訓練班で教える。
- 1941年1月 盛婕と重慶へ。
  - 国立実験劇院で授業。
  - 陶行知の紹介で、周恩来に会い、延安に行く決心をする。

1941年6月5日～6日

「戴愛蓮、呉曉邦、盛婕——新舞踊表演会」

文化工作委員会の陽翰笙の司会。

右のパド・トロワ『合力』は呉の振り付け。

戴は「資産階級」、呉曉邦、盛婕は「老百姓」、音楽:ベートーヴェン  
主題:各階層における人民の抗日団結。



## 当時の呉曉邦批評

江上仙「新舞踊と新演劇」『新華日報』1941年4月9日

その中には古典的な作品、例えばベートーヴェンやムソルグスキーの楽曲の舞踊が含まれており、...（星野略）...古典作品は一般観衆の理解に於いては、十分その含む意義を理解したのは今日の観衆ではやはりあまり多いとは思われない。その原因は、音楽の修養が欠けているほか、現代生活と楽曲の表現とに非常に大きな隔りがあるからではなかろうか。対照的に、創作作品は比較的容易に観衆に受け入れられた。主要な原因は、たぶんそれが現実であるからだ。

## 1942年5月～1945年までの動き、簡略版

- 1942年5月四川省江安
- 7月広東曲江
- 1943年秋 桂林 貴州独山、貴陽、
- 1944年1月重慶
- 1944年3月西安
- 1944年6月 成都
- 1945年6月 重慶 延安



## 目下の仮定

- 呉は、高田よりも江口の影響が強い。
- ・江口よりも、「危機に陥った現実社会の救済や、新たな秩序の創生という概念と分かちがたく結びついてきた」という意味で、むしろドイツ表現舞踊を正統に受け継いでいる。
- ・ドイツ表現舞踊がナチスに取り込まれたように、この呉が移植した表現舞踊の特性が、文革に舞踊が取り込まれる一因となる？

## 今後の課題

- ・人物の複数証言の収集。
- ・上の内容について、新聞など客観的資料による裏付け。
- ・抗日舞踊・話劇団の移動  
芸術関連専門学校の移動  
人物関連図  
人物の移動図など  
根拠とそれぞれの目的を明確にしつつ作成していく。

## 主要参考文献

- 金井美三枝ほか監修『江口隆哉対談集 芸のこと 技のこと』アート・ダイジェスト2012
- 日下四郎『モダンダンス出航—高田せい子とともに』  
呉曉邦『我的舞踏芸術生涯』中国戲劇出版社、1982  
『百年呉曉邦』北京文化芸術出版社2006
- 重慶『新華日報』1941-1943  
沈殿成主編『中国人留学日本百年史1896—1996』上冊、遼寧教育出版社、1997
- 中国大百科全書編集委員会編『中国大百科全書 音楽・舞踊』1992
- 宮操子『陸軍省派遣極秘従軍舞踊団』星雲社、1995
- 山口庸子『踊る身体の詩学 モデルネの舞踊表象』名古屋大学出版会、2006
- ルドルフ・ラバン『新しい舞踊が生まれるまで』日下四郎訳、大修館書店、2007
- 劉青弋『中華民国卷 中国舞踊通史』上海音楽出版社2010